

報徳園だより

〒514-0065 三重県津市河辺町 1317-1
TEL:059-228-1951 FAX:059-228-1952 <http://www.houtokuen.jp/>

題字 理事長 常磐井猷磨

笑いと ふれ合いのある 暮らしの場

園長 千草 篤磨

最近、職員が研修などに参加して、「法人の基本理念を発表しなければならないので、もう一度詳しく教えてください」と言ってくる場合があります。毎年4月には、新任職員を対象に法人の基本理念について話をしますが、一度聞いただけで分かるものではありません。必要な時には、何度でも話すようにしています。本法人の基本理念は「施無畏」です。仏教



特別養護老人ホーム

報徳園

笑いと
ふれ合いのある
暮らしの場

社会福祉法人 高田真善会
特別養護老人ホーム 報徳園 (ショートステイ併設)
デイサービスセンター 報徳園
在宅介護支援センター 報徳園 (居宅介護支援・在宅介護支援)

における布施の一つで、恐れ無きを施すこと、すなわち接する人びとが安心して暮らせるよう実践を行うことです。しかし、職員だけが分かっていたのでは不十分で、一般の人にも分かりやすく伝えなければならないと感じていました。

この度、法人の基本理念を覚えやすいキャッチコピーにしてみました。それが表題に挙げた「笑いと ふれ合いのある 暮らしの場」です。笑

うことは心が快状態の時の感情表出です。例外的に恐ろしい時に笑うこともあります。ここでは自然な喜びの表れとしての笑いです。その笑いを生み出すためには、人と人のふれ合い、関わりが不可欠です。社会的存在としての人間は、機械やロボットとの関わりだけでは尊厳を保つことはできません。高齢者同士や職員や家族とのふれあいが重要です。そして、老人ホームは治療や訓練の場ではありません。また、単なる安らぎや憩いの場でもありません。普通に過ごす「暮らしの場」でなければなりません。

今はコロナの影響で、家族の方との面会場所をロビーでお願いしています。一日も早く、従来通り各居室でゆっくりと面会ができる日が来るよう願っています。それまでの間に、居室が今まで以上に「生活の場」にふさわしくなるよう、各ゾーンで工夫しているところです。

報徳園のホームページや新しく作製したリーフレットにもこのキャッチコピーを掲載していますので、一度ご覧になって下さい。

入所者のみなさんの生活は、 心身の状況に応じて4つのゾーンに分かれています。

1丁目

年末年始には沢山の面会があり、いつもと違う笑顔や表情が見られました。早いもので新しい年の幕開けです。お雑煮、お屠蘇を頂き、少しほほを赤くされるのを見て、お互いに自然と笑顔がこぼれます。書初めやコマ回しを見て正月を味わい、暖かな日に恵まれ、近くの石積神社に出掛ける事が出来ました。職員の願いは勿論「健康祈願」、利用者さんに尋ねてみると「今年も平和でありますように」と願う思いに心が温かくなりました。これからも季節の行事を楽しんで貰い、安心して過ごして頂けるよう支援して行きたいと思えます。



2丁目

12月に入り昨年も作成した干支飾りを始めました。今年は寅年、可愛い寅に仕上がりました。ちぎった折り紙を丁寧に貼り付けて完成。これから一年2丁目の皆さんを見守ります。新しい年が始まり年始には園向かいの石積神社に初詣に行きました。お屠蘇をいただいたり、書初めやカルタをしたりとお正月を皆で楽しみました。カルタ取りでは、普段見られないような皆さんの熱心な表情を見ることができ、職員も熱くなりました。利用者の皆さん一人一人の『出来る力』『やりたい思い』を見出し、毎日笑い声の絶えない2丁目にしていきたいと思えます。



3丁目

「コロナ」と向き合い2年が経ちました。早かったようで長かったようでもあった2年でした。「報徳園」という限られた空間での生活となり、中々外へ出る事も出来ず、皆さんも窮屈な思いをされたことでしょう。その中で感染状況が落ち着いた時期には、音楽ボランティアの演奏会が行え、利用者の皆さんと楽しく歌うことが出来ました。利用者の皆さんの笑顔を見ることができ、喜びを感じています。

日々、元気を頂ける利用者の方々に感謝しながら、今年より良い1年になるよう努めていきます。



4丁目

コロナ渦でご家族との面会も制限があり、利用者さんの気分も沈みがちになる昨今。単調になりがちな日々の生活が少しでも充実できるよう、4丁目では風船バレーで体を動かしたり、童謡や昭和歌謡を歌ったりする時間を大切にしています。歌の合間に当時のことを尋ねると、まるで昨日のことのように話をしてくださり、時には利用者さん同士で昔話に花が咲き、その光景はとても微笑ましいです。利用者さんに対して職員全員が、自分の身内に接するように対応させて頂き、利用者さんが穏やかに過ごせて、自然と笑顔がこぼれる4丁目になるよう努めていきます。



デイサービスセンター報徳園 (認知症対応型通所介護)

報徳園のデイサービスは、年末年始にもご利用があり、利用者さんには書初めや縁起物の工作などでお正月気分を味わってもらいました。レクリエーションの意義として認知機能の維持がありますが、私達が子どもの頃の遊びでもある「しりとり」をよく行います。言葉を考えること、言葉の持つ意味に感情が現れ、驚いたり、笑ったり。脳のトレーニングとしてはとても取り組みやすく、効果的であると思われれます。また、いつもはあまり話をされない利用者さんでも、次々と言葉が出てくるなど意外な一面を知ることができ、レクリエーションの定番になっています。



在宅介護支援センター

年末年始の帰省で久しぶりにご家族に会われ、楽しく過ごされた方も多いと思います。その一方で、電話等でのやりとりでは感じられなかった、ご家族の変化に改めて気づかれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。冷蔵庫内が、賞味期限切れの物や全く同じ種類の物ばかりで溢れていたり、自家用車や車庫の壁の傷が目立つ場合は、認知症のサインかもしれません。また、しばらく会わない間に足の運びが悪くなっており、このまま放っておいて大丈夫だろうかと思われる事もあると思います。ご家族の心身の変化に少しでも不安を感じられる際は、在宅介護の知識や経験を活かした、様々なご提案をさせていただきますので、ぜひお気軽にご相談下さい。



みんなの声

INTERVIEW

入所者インタビュー

廣岡 しげ子 さん (78才)

①入所前の生活はどうでしたか？

若い頃はタオル工場に勤めたりしていました。両親が亡くなり、兄弟と一緒に住んでいましたが、兄がケガをして入院したのをきっかけに、一人での生活は難しくなり、報徳園に入りました。

②ここでの暮らしはいかがですか？

以前から体調を崩すこともあるけれど、報徳園のご飯や野菜は軟らかく炊いてくれてあるので、体調に合わせて加減をしながら美味しく食べています。お風呂は朝風呂で入らせてもらうのでスッキリします。昼間はTVを見たりしていますが、慣れたところで安心して過ごしています。昔はこの近くでよく散歩をしていました。周りには色々あるので、また外に連れて行って下さい。



家族インタビュー

(娘) 梶 美保 さん
(入所者 西 龍馬 さん 93才)

①入所前はどんな生活でしたか

父と母の二人暮らしでした。父は病気で半身麻痺になってからも、頑張って生活していましたが、少しずつ難しくなってきたと感じるようになり、私の住む家での同居を始めました。その後報徳園に入所することになりました。

②入所後の生活はどうですか？

入所当時は「帰りたい」と言っていました。でも徐々に落ち着いていって、今は満足しているようです。特にお風呂は好きで、「介護の人がテキパキしてくれる」と言っています。食事は健康的で、風邪もひかずに過ごしています。毎日父から母に電話をかけて、色々な話をしているようですが、この距離感がちょうど良いようです。母はミシンや縫物が得意なので、コロナが落ち着いたら報徳園の父の部屋でタンスの整理や服の修繕をしたいと言っています。



地域のみなさんへのインタビュー



認知症の人と家族の会

三重支部副代表 河戸 義男 さん

私は妻の父親の介護の経験や、妻の認知症発症を機に、認知症の勉強がしたいと考え、平成23年に認知症の人と家族の会に入会しました。その後セミナーなどに参加しているうちに、会の運営を手伝う世話人をする事となりました。認知症の人と家族の会には、個人160名程、法人10数名程の方が会員となっています。認知症の方を介護している家族や、医療、介護、教員など専門職の方もいらっしゃいます。主な活動としては、県内10か所での介護者交流会「つどい」

の開催、会報誌の発行、三重県認知症コールセンターの相談業務などで、認知症の情報提供や、介護者へのサポートを行っています。

この度、報徳園さんには賛助会員に入会いただき、ありがとうございました。今後とも情報交換等よろしくお願い致します。

医務室より



1月に入り寒い日が増えてきました。空気も乾燥し感染症リスクも高まっています。



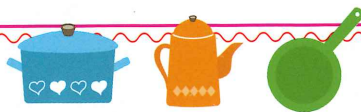
手洗い、うがい、咳エチケットなど、より一層丁寧な予防が大切です。



医務室では、12月にノロウイルスの研修を行いました。今回は、使い捨てガウンの着脱の確認から嘔吐物の処理方法まで、一連の流れを説明しながら行いました。参加者からいろんな意見を聞くことができ、次回の研修の時に活かしていきたいと思います。実際に感染症が発生した時に、スタッフが迅速に対応することはとても重要です。施設内のウイルス蔓延を防ぐために、定期的に研修を行い、マニュアルを着実に実行していきたいと考えています。



給食業務より



2022年スタートし、園内の厨房も新年を祝うごちそうの調理から始まりました。

雑煮の中のお餅は「お餅風ムース」を今年初めて使用しました。嚥下能力の低下している方に適した柔らかさで安全に召し上がっていただくことができ、見た目は本物の餅そっくりで利用者さんに喜んでいただけました。

正月を祝うおせちにはそれぞれに由来があります。中には利用者が食べにくいものもありますが、形態に応じた工夫を行うことで見た目はそのままに提供しました。

数の子はパリッとした歯応えがあるため、噛むことの難しい超刻み食の方には細かく刻んだものを寒天で固めました。今年の干支の虎の絵馬かまぼこも、弾力があるため普通食の方にはスライスで提供し、超刻み食の方には柔らかい梅柄のかまぼこムースにしました。ミキサー食の方にはペースト状にしたものを食紅で色を付けて型に入れることで、かまぼこらしい見た目にこだわりました。

園では家庭のような手作り感のある食事を目指していますが、今回のように行事食では既製品も一部に取り入れることで、見た目良く喜んでいただくことができました。今年も思いやりのある食事を安定的に提供できるよう意識をもって取り組んでいきます。



ミキサー食



超刻み食



普通食

職員研修会

今年度の職員研修は、「介護現場でのハラスメントを考える～職場での人間関係を円滑にするために～」の題で高田短期大学非常勤講師、松枝桂子先生による園内研修を行っています。2年前の10月には、「虐待防止」のテーマで松枝先生に研修をお願いしましたので、2度目の講義となりました。

今回は、管理職員対象、一般職員対象に分かれての研修となっていて、対象者全員が一度に受けることは難しいため、松枝先生には同じ内容の研修を数回お願いしています。去年8月に始まった研修も、今年の3月で全員が研修を終えることとなります。

私は、管理職員対象の研修を受けましたが、パワーハラスメントにならない指導のポイントも具体的に学び、自分を振り返る良い契機となりました。パワーハラスメントやモラルハラスメントの定義や判断基準、過去の裁判例なども勉強し、ハラスメントチェックも各自が行いました。個人としてできることは、人権意識を持ち、コミュニケーションのある職場環境作りや言動への配慮、被害のサインを見落とさないことが大切です。また、ハラスメントを防止するために組織としての意識改革や予防対策、迅速な対応も必要となってきます。

「ハラスメントは、しない！させない！許さない！そして、見逃さない！みんなで作ろうハラスメントのない職場！」で研修は締めくくりとなりました。

研修を受けた職員も、これから受ける職員も、この研修が意識づけとなり風通しの良い環境を作ることができれば、と思っています。



新任職員紹介～新人職員2名の自己紹介です～



山口 隆弘（管理栄養士）

昨年の8月から管理栄養士として採用されました。以前は三重県の北勢地域の福祉施設と病院で献立作成や厨房業務、栄養指導等の業務を行っていましたが、自分の出身地である津市に転職先を探していました。報徳園では早く仕事に慣れて、利用者さんの状態や食生活の把握、向上を心がけて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



志戸岡 奈実（看護職員）

看護師の志戸岡奈実と申します。珍しい苗字とよく言われるので、覚えにくいかと思いますが、この機会に覚えて頂けると幸いです。私は今まで病院で働いてきました。施設で働かせて頂くのは初めてで、ご迷惑をおかけしますが、1日でも早く一人前になれるよう頑張ります。よろしく申し上げます。



誰もが「仏の子」

鈴鹿市 法林寺住職 里榮秀教

私たちは、それぞれ姿、形、性格もだれひとりとして同じ人はいません。私の「いのち」、人生はこの私しか生きられません。たとえ親子、夫婦、兄弟でも、だれも代わってもらうことのできない不可思議な「いのち」です。経験する苦勞、苦惱もだれにも代わってもらえません。

代わりのない、ひとりひとりの「いのち」を授かって、かけがえのない、大切な、ときにきびしい「いのち」の人生を、それぞれが生きているともいえます。だからこそ、そのことを重々ごぞんじの仏（阿弥陀仏）様に、だれひとりも放っておく、捨てておくことができない「いのち」と、いつも案じ、心配され、願いつづけられているのです。私たちは

その真実に気づき、「いのち」の持つ本当の尊さに、目覚めなければなりません。

親鸞聖人は、「如来は衆生を一子のごとく憐念す」（浄土和讃）とおっしゃられました。私の「いのち」そのものが仏様から、かけがえのない「ひとり子」のごとく、大切に思い、願われている「いのち」であったと気づかせていただくことは、この「いのち」を生きる私は、まことの親になろうとして、はたらきつけてくださる仏様の「仏の子」であったのだと、うなずかせていただくことでもあります。

幼子から百歳の「いのち」まで、仏様の前では、みんな「仏の子」なのです。仏様の思い、願いがいつも、どこにいてもかかっている「いのち」を、今、生きているのだと、みなで安心して生かさせていただきましょう。

合掌

ボランティアさん紹介

岸田 良生さん

以前、報徳園で介助員として環境整備や送迎などの仕事をされていた岸田良生さん。ギターがとても上手で、昨年11月頃より週2回来園され、昭和の歌や唱歌などの弾き語りを2時間程してくれています。

利用者もギターに合わせて歌ったりリズムを取ったり、中には涙を流す方もおられますが、施設内も賑やかになり職員も一緒に楽しませてもらっています。

「男前の写真を使って欲しい」との要望でしたが、男前に写っていますか？

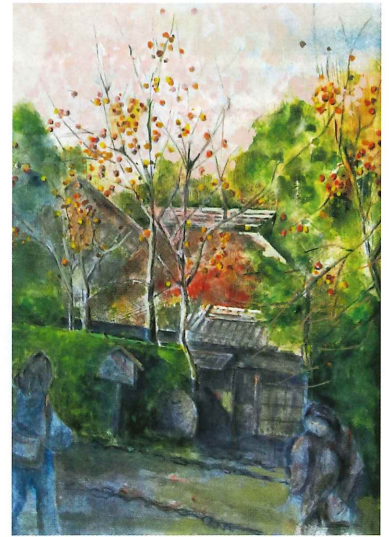


ギ ャ ラ リ ー



「早春の庭園」(熱海) 江藤洋子さん

集会所(仏間)前の廊下の壁は絵画や写真のギャラリーとして、入所者や来園者の和みと癒しの空間となっています。月単位で10作品ほどを入れ替え展示しています。今回は川邊二郎さんの絵画と江藤洋子さんの写真を紹介します。



「落柿舎」(京都) 川邊二郎さん

表 彰

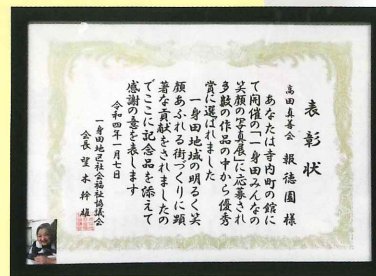


長年報徳園に勤務し、その功績により今年度各種表彰を受けた職員を紹介します。

- ・厚生労働大臣表彰
今田麻理子(介護職員:33年)
- ・三重県知事表彰
大前 恵(介護職員:30年)
小林 優子(介護職員:30年)
- ・三重県社会福祉協議会会長表彰
稲葉 仁志(介護支援専門員:21年)
大田 皓子(介護職員:21年)
- ・全国老人福祉施設協議会会長表彰
平子 俊輔(相談員:20年)
菅寄小百合(介護職員:20年)
- ・全国老人福祉施設協議会感謝状
津田 裕子(介護職員:16年)
森本 克子(調理員:15年)
佐々木千香子(介護職員:15年)
- ・津労働基準協会会長表彰
駒田恵美子(事務員:31年)

一身田みんなの笑顔の写真展

昨年11月に「一身田みんなの笑顔の写真展」へ報徳園から数点応募させて頂きました。集まった約400点から地元写真館と高田高校写真部員が106点を選び、一身田寺内町の館で展示されています。報徳園から優秀賞1点、優良賞2点、佳作2点が選ばれました。1月7日に表彰式があり、賞状や記念品を頂いています。



令和3年度全国老人福祉施設研究会議で研究発表

昨年9月に行われた令和3年度東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会で報徳園職員が行った研究発表が、令和3年度全国老人福祉施設研究会議に選ばれ、1月14日から3月31日までオンデマンド配信されることになりました。第1分科会において、「不安な表情の多い高齢者との関わり」(介護職員・近澤明莉)というテーマで、報徳園における共同研究の成果を発表しました。

編集後記

報徳園だよりを読んでいただき、ありがとうございます。利用者の皆さんの生活の様子や職員の思いを紹介出来て嬉しく思います。インタビューコーナーでは、その方の思いをゆっくり聞いているので、普段聞けない話が聞けたりする事は興味深いところでもあります。皆様ご協力ありがとうございました。